

国語科学習指導案

広島県立尾道特別支援学校 和田 佳奈美

1 日 時 令和4年11月28日（月）第1校時

2 学 年 第1・2学年1組（2年） 男子1名 女子0名 計1名

3 単元名 おもちゃの作り方を伝えよう

「馬のおもちゃの作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」

（光村図書 「こくご二下 赤とんぼ」）

4 単元について

（1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第1学年及び第2学年の〔思考力・判断力・表現力等〕「B 書くこと」（1）の指導事項「イ 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。」、 「C 読むこと」（1）の指導事項「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」を受けて設定している。

「自分の思いや考えを明確に伝える」力を育成するには、内容のまとまりを捉え、時間や事柄の順序を表す言葉を適切に用いることが必要となる。また、明確に伝えるための語彙を身に付け、分かりやすく伝えられる言葉を選択することも必要となる。

本単元は、「読むこと」の領域である「馬のおもちゃの作り方」と、「書くこと」の領域である「おもちゃの作り方をせつめいしよう」の二つの教材で構成されている。本単元のおもちゃ作りという題材は、児童が意欲的、主体的に説明書を読んだり書いたりする活動に適している。また、おもちゃが仕上がるかどうかで、正しく読み取れているかがはっきり分かるため、何度も確かめながら読む必要が出てくる。

（2）児童観

本学級は聴覚障害単一障害学級で、第2学年については1名が在籍しており、本校には幼稚部年少から通ってきている。主なコミュニケーション手段は音声ではあるが、手話や指文字を併用しながら、コミュニケーションを取ったり、言葉を身に付けたりしている。学習については、できたことに喜びを感じ、「できた！」「もっとやりたい！」と意欲的な姿も多く見られる。

本単元に関わっては、これまでに「読むこと」の領域における説明的な文章として、第2学年で「たんぼぼのちえ」、「どうぶつ園のじゅうい」を学習している。「たんぼぼのちえ」では、挿絵の並び替えを通して、時系列にたんぼぼの変化を理解することができた。また、時間の順序を表す言葉に着目し、その後に「たんぼぼのちえ」が書かれているという形式も理解することができた。「たんぼぼが知恵を働かせる理由」については、「～だから」という言葉がついている箇所は見付けることができたが、「～だから」という言葉がついていない箇所は、「理由」として理解しにくく、見付けることが難しかった。

「どうぶつ園のじゅうい」では、時間の順序を表す言葉に着目し、「いつ、何の動物に、どんな仕事をしたのか」を表にまとめることができた。文章を読んで感じたことを書く活動では、驚いた仕事について書くことができたが、自分の経験と比べたり、考えたことを書いたりすることに難しさがあった。その理由として、生活経験が少ないこと、これまでの経験を想起したり、それを自分の言葉で表現したりすることに難しさがあること等が考えられる。そのため、単元の学習の前に、学習に関連した体験を意図的に取り入れたり、それについての感想を書かせたりする活動を定期的に行う必要がある。

「たんぼぼのちえ」の単元末テストの正答率は90%（思考・判断・表現をみる設問）であった。穴埋め問題では、答えの前後の文と同じ言葉を本文から見つけ、抜き出すことができていた。記述問題では、本文のどこを読めばよいかは理解できていたが、設問に合うように書き換えることが難しく、

本文をそのまま抜き出してしまっていた。「どうぶつ園のじゅうい」の単元テストの正答率は70%（思考・判断・表現をみる設問）であった。本文とは言い回しが変わっている問題では、本文のどこを読めばよいか分からず、挿絵のみを見て、本文に書かれていない内容を書いてしまっていた。問題の書き方や問いかけの仕方によって、必要な情報を選び出すことに難しさがあると考えられる。

(3) 指導観

指導に当たっては、本単元全体を通して、①文章構成や順序の工夫を読み取る活動、②読み取った工夫をもとに文章を書く活動に重点を置いて進めていく。

①について、本単元で読み取らせる説明の工夫は、「大きく四つのまとまりに分かれていること」、「順序を表す言葉が使われていること」、「具体的な数字が使われていること」、「図や写真が使われていること」の四つである。「馬のおもちゃの作り方」を読みながらおもちゃを作る活動を通して、正しく作るために何度も読み直したところに着目させる。そこはおもちゃの作り方を説明する上で重要なところであることをおさえ、説明の工夫の発見につなげる。また、jamboardを用いて、順序を表す言葉や文のまとまりを並び替える活動を通して、体験的に順序を理解し、工夫を読み取りやすくする。

②については、児童がおもちゃを作る過程を、写真や動画で残しておくことで、説明文を書く際に文章化させやすくする。

また、①、②に加えて、適宜、口声模倣をさせ、学習言語の定着を図ったり、助詞を正しく用いた文で話をさせたりする。児童が手話を使わずに音読や黙読をして、文の意味を捉えられていない際は、手話を付けて読むようにさせ、語や文の意味理解を促す。





5 単元の目標

- 事柄の順序から情報と情報との関係について理解することができる。
〔知識及び技能〕(2) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1) ウ
- 自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1) イ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

6 単元の評価規準

教材文を読んで見つけた分かりやすく説明するための工夫を生かして簡単なおもちゃの作り方を説明する文章を書く活動を通じた指導 【言語活動例 B(2)ア及びC(2)ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・事柄の順序から情報と情報との関係について理解している。 (2) ア	・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 (B(1)イ) ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C(1)ウ)	・事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

7 評価の具体及び手立て

	<p>評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】</p>	<p>「努力を要する」状況（C）と判断した場合の指導の手立て</p>
<p>思考・判断・表現</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 四つのま とまりに 沿って、構 成を考 えている。 ・ 順序を表 す言葉を入 れている。 ・ 作り方の 文章に合 った写真を入 れている。 </div> <div style="width: 50%; border-left: 1px dashed black; padding-left: 10px;"> <p style="text-align: center;">(楽しみ方)</p> <p>牛にゆうパックをうらがえしにおってわくと、ジャンプします。高くとぼすと 楽しいですよ。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-bottom: 10px;">     </div> <p style="text-align: center;">(作り方)</p> <p>まず、牛にゆうパックを広げます。そして、たて六センチメートルの はばで切ります。</p> <p>つぎに、はしから一センチメートルのところに、三角形の切りこみを 四つ入れます。</p> <p>それから、切りこみにわゴムを、しゃんのようにかけます。</p> <p>さいごに、牛にゆうパックの白い方に、カラーペンで好きな絵を かいたらできあがりです。</p> <p>・ はさみ ・ カラーペン ・ わゴム 一本</p> <p style="text-align: center;">(せりょうどうぐ)</p> <p>・ 牛にゆうパック 一つ ・ カラーペン 一本</p> <p style="text-align: center;">(作り方)</p> <p>牛にゆうパックをつかった、パッチンジャンプの作り方をせつめいします。</p> <p style="text-align: center;">(せりょうどうぐ)</p> <p>・ 牛にゆうパック 一つ ・ わゴム 一本</p> <p>・ はさみ ・ カラーペン</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作り方の工程ごとに、 動画を見て振り返り ながら、何をしていた かを確認させる。 ・ 教師が、児童の書いた 説明文どおりにおも ちゃを作り、説明が足 りない部分に気付か せる。

8 指導と評価の計画（全15時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
一	1 2	○「馬のおもちゃの作り方」を読んで、おもちゃを作る。 ○作るときにどこが難しかったか、教科書に印をつけることで残しておき、それをもとに説明の工夫を見つけるとともに、自分でも説明書が書けるようにするという学習課題を設定する。				
	3 4 5 6 7 (本時)	○「馬のおもちゃの作り方」を読んで、分かりやすい説明の工夫を見つける。	○	○		[知識・技能] <u>ワークシート</u> ・事柄の順序から情報と情報との関係について理解している。 [思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
二	8 9 10 11 12 13 14	○説明書を書くおもちゃを決め、必要な材料や道具を考える。 ○選んだおもちゃを作りながら、工程ごとに説明を書く。 ○教師が、児童の書いた説明をもとに、実際におもちゃを作るなどして、内容の見直しをする。		○	○	[思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・「書くこと」において、自分の思いや考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 [主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子</u> ・事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。
三	15	○感想を書き、学習を振り返る。				

9 本時の学習（6/15）

（1）本時の目標

本文は、大きく四つのまとまりに分かれており、〈何を作るか〉〈ざいりょうとどうぐ〉〈作り方〉〈楽しみ方〉の順序で書かれていることを理解することができる。

（2）学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した場合の指導の手立て	評価規準と評価方法
1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○前時までに学習した〈作り方〉の説明の工夫を確認し、本文は〈作り方〉だけではないことに着目させ、本時のめあてにつなげる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 「馬のおもちゃの作り方」のせつめいのくふうを見つけよう。 </div>		
2 教師の提示した文章と、教材文との違いに気付く。	○四つのまとまりの順序がばらばらになっている文章を提示し、教材文と比較することで、学習活動4において、順序が違うと分かりにくくなってしまいうことに気付けるようにする。	
3 四つのまとまりの役割を確かめる。	○〈何を作るか〉以外は、題がついていることから、1つ目のまとまりには何が書かれているのかを考えられるようにする。 ○四つのまとまりを色分けしたり jambord を使ったりして、視覚的に分かりやすくする。	〈何を作るか〉〈ざいりょうとどうぐ〉〈作り方〉〈楽しみ方〉の順序で書かれていることを理解している。
4 説明の工夫を確かめる。	○筆者の工夫は何なのか、その工夫をすることで、どんなよいことがあるのかを考えさせることで、「準備して、作って、遊ぶ」という時系列で書かれているよさに気付けるようにする。 ◆教材文と教師の提示した文章を読み比べ、順序が異なっているとおもちゃを作るときにどのようなことに困りそうか、児童がおもちゃを作った際の経験を想起しながら考えさせる。おもちゃ作りの際の経験の想起が難しそうであれば、児童がおもちゃを作った際の動画を見せ、経験の想起をやすくする。	【知・ワークシート】
5 本時の学習を振り返り、まとめる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> くふう④ 〈何を作るか〉〈ざいりょうとどうぐ〉〈作り方〉〈楽しみ方〉のじゅんばんで書くこと </div> ○本時で見つけた工夫をまとめ、次時からは、見つけた工夫を使って説明書を作ることを確認する。	

(3) 板書計画

<p>馬のおもちゃの作り方</p> <p>くふう①　しゃしんがついていること くふう②　じゅんばんをあらわすことばが 　　についていること くふう③　長さや数をあらわすことばが 　　についていること</p> <p>めあて　「馬のおもちゃの作り方」の 　　せつめいのくふうを見つけよう。</p>	<p>四つのまとまりのまま、 順序をばらばらにした文章</p>	<p>まとまり①　〈何を作るか〉 まとまり②　〈ざいりようとどうぐ〉 まとまり③　〈作り方〉 まとまり④　〈楽しみ方〉</p> <p>くふう④　〈何を作るか〉〈ざいりようと 　　どうぐ〉〈作り方〉〈楽しみ方〉の 　　じゅんばんで書くこと</p>
--	-------------------------------------	--

10 手立ての具体

①おもちゃを正しく作るために、文章の中で何度も読み直したところに印をつけさせる。

この手立てによって、印をつけた箇所が、説明書を書く上で重要であることをおさえて、説明の工夫の発見につなげることができると考えた。

実際にこの手立てを行い、順序を表す言葉や、長さや数を表す言葉が重要であることをおさえることができた。そして、説明書を書く際にも、印をつけた言葉を意識して取り入れることができた。

②jamboardを用いて、順序を表す言葉や文のまとまりを並び替える活動を取り入れる。

この手立てによって、タブレット端末上で体験的に順序を理解させることで、説明の工夫を読み取りやすくすることができると考えた。

ワークシートで記入する方法や、板書上の短冊を並び替える方法ではなく、タブレット端末を用いることで児童の関心を高め、楽しみながら体験的に順序を理解させることができた。

③児童がおもちゃを作っている過程を、写真や動画で残しておく。

完成品だけを見ても、過程を想起しにくいいため、写真や動画といった目に見える形で残しておくことで、説明書を書く際に文章化させやすくなると考えた。

実際に、児童がおもちゃを作っている様子を動画で撮影し、その動画を振り返りながら、順を追って作り方を文章化することができた。

④児童の説明書どおりに教師がおもちゃを作る。

説明書を書いている際の修正方法が分からない、書き終わって読み直さず満足してしまっていた児童に対して、教師が、児童の書いた説明書のとおりにおもちゃを作ってみる、という手立てを取り入れた。

この手立てを行ったことによって、読んだだけではうまく作れない、つまりその部分の説明が分かりにくいということを理解させ、修正につなげることができた。

11 評価の実際



本単元の児童の評価規準について、四つのまとまりに沿って構成を考え、順序を表す言葉や適切な写真を入れて、説明書を書くことができている場合をB評価とし、B評価に加えて、読み手に伝わりやすいように文章の表現を工夫できている場合はA評価とした。

今回は、文章の表現方法の工夫はできていなかったが、四つのまとまりを意識し、順序を表す言葉や適切な写真を入れることができいたため、B評価とした。

12 成果と課題

成果としては、4点挙げられる。

- ・「何を作るか」「ざいりょうとどうぐ」「作り方」「楽しみ方」の四つのまとまりに分かれていることを理解し、書き表すことができていた。
- ・教科書に印をつける活動を行ったことで、順序を表す言葉を使うこと、材料の数をきちんと示すことを意識して取り入れることができていた。
- ・写真の重要性を理解できたことで、撮影した写真の中から適切な写真を選択し、写真と文章の内容が対応する場所を考えて貼り付けることができていた。
- ・おもちゃを作る様子を動画で残しておくことで、制作過程を振り返りやすくなり、説明の順序をおさえながら説明書を書くことができていた。

課題は、次の2点である。

- ・単元の導入において、本文を読みながら馬のおもちゃを作る活動を行った際、文章をきちんと読まず、目で見て分かりやすい写真だけを見て作ろうとしていた。その結果、部品の高さを間違えてしまいうまく作ることができていなかった。

この課題の改善案として、生活科の教科書と国語科の教科書を比較させ、国語科では、写真と一緒に文章をしっかりと読むことの必要性をおさえてからおもちゃ作りに入る。

- ・文章の表現がおかしいことが分かっても、どのような言い回しに修正すればよいか分からない状態になっていた。

この課題の改善案として、教師から、説明書の良い例、悪い例を提示し、文章の表現の参考にさせる。また、児童本人に音読させたり、他の人に読んで聞かせたりする場を設けることで、内容のフィードバックができるようにする。